

片山春美さん（ふくしま連携復興センター）

■ 活動内容

ふくしま連携復興センターで運営している各事業の中のひとつの、「ふくしまの今とつながる相談室toiro」（県の委託事業で、県外に避難されている方々のための相談窓口）で電話相談に応じています。

また、県外避難者の方々に福島現状を知っていただく取組みとして、福島の人材を交流会等に派遣する事業や県内の情報をまとめた冊子「color」の制作にも関わりました。

■ 活動を始めたきっかけ

震災後、放射線に対する健康不安から、幼い子ども4人を連れ鳥取県へ母子避難をしました。避難直後から交流会等を通じ、避難者の方々とのネットワークを広げ、お互いに信頼関係を築き支え合い避難生活を共にする中、平成24年12月より、とっとり震災支援連絡協議会の支援コーディネーター（鳥取県の委託事業）として鳥取県内全域の避難者支援業務に携わってきました。平成27年春、父が病のため急遽帰還を決意しましたが、まだまだ終わりの見えない現状ゆえに志半ばで帰還することへの葛藤が日々続いていました。これまで自分を支えてくれた同じ境遇である避難者の方々、多大なるご支援をいただいた皆様に対する感謝の気持ちが最大の原動力となり、福島から何か力になれることを続けていきたいという強い想いで、平成27年3月11日にこの事業に応募しました。



「colorの制作では、3カ月かけて色々な団体を取材しました。」と活動を振り返る片山さん



福島市にある「ふくしま連携復興センター」の事務所



復興のパイオニア（復興女子編）

■ 活動を通じて思うこと

最近では帰還を考えている方から住宅の相談が多く、また、長期避難による経済的負担が限界に至っているケースも少なくありません。家庭不和による行き所の無い悩みや避難先あるいは帰還後の人間関係に不安を抱いている方等、相談は多岐に渡っています。長期避難により身も心も疲れ果てている方からの相談も時間の経過と共に増えており、少しでも心が軽くなるようなお手伝いできればと思っています。

また、福島に戻って感じたことは、県外に福島の情報が行き届いていないということです。toiroの活動を通し、県内県外共に正しい情報を共有し、相互理解を深め良好な関係が創り出せるよう努めていきたいと思っています。

今後、どのような選択をされても、みなさんが笑顔になれる日が1日も早く訪れますよう心から願っています。

■ 復興庁について

当事者、支援者の声を真摯に受け止め、国と福島県が一体となり主導となり、本当に必要な支援をきちんと反映していただきたいと強く願っています。

ふくしま連携復興センターは、様々な支援NPOの調整役(中間支援)の組織です。復興庁は「被災者支援コーディネート事業」によりふくしま連携復興センターを通じてNPOの取組みを支援させていただいています。



広域避難者支援のメンバー同士で打合せをする
(右から)片山さん、安齋さん、佐藤さん

toiroで制作された冊子「color」の表紙

